

与論島赤崎鍾乳洞内で検出された人骨

—調査速報—

A prompt report of human skeletal remains from Akasaki cave, Yoron island, Kagoshima

竹中 正巳
Masami Takenaka

鹿児島女子短期大学

抄録：本稿は与論島赤崎鍾乳洞内で発見され、洞内で保管されてきた古人骨調査の速報である。洞内で検出され保管されてきた人骨片4片と動物骨1片が確認された。人骨片は左大腿骨2片（骨体上部が1片、骨体中央から下部にかけて1片）、右大腿骨1片（骨体上部）、左脛骨1片（骨体部）である。

Keywords : Akasaki cave, Yoron island, human skeletal remains

キーワード : 赤崎鍾乳洞, 与論島, 古人骨

1. はじめに

鹿児島県大島郡与論町麦屋に所在する赤崎鍾乳洞は、日本大学探検部によって1965年3月に発見された。現在は観光洞窟として見学ができるようになっている。赤崎鍾乳洞については、武永（1973）、九州大学探検部（1974）や吉村・井倉（1981）の調査報告や記述、測図がある。先人の業績によれば、赤崎鍾乳洞は洞口がドリーネの底に開口し、洞床は水平直線型である。洞口から-4～-6mの位置にあり、主洞の走行はN60°Wである。古生層と琉球石灰岩との不整合部に形成されており、洞内二次生成物は比較的良好に発達している。主洞から北と南に支洞が枝分かれする。北支洞は130mで、主洞とほぼ同じ方向に延び、洞高0.4～0.8m、洞幅0.5～1mの一定の規模を保って伸びている。南支洞は20mで比較的大きな広間となっており、多くの人骨が出土すると記載されている。

赤崎鍾乳洞の南支洞で発見された古人骨や動物骨の一部は、洞窟管理者によって洞内で保管されてきた（図1）。現在



図1 与論島赤崎鍾乳洞

の赤崎鍾乳洞管理人の椋山継男氏の許可により、長年、洞内で保管されてきた古人骨と動物骨の調査の機会が与えられた。本稿は古人骨分の調査速報である。

赤崎鍾乳洞内から新たな古人骨を検出できないか、2018年1月20日と21日の両日、調査を行った。しかし、新たな古人骨や動物骨は発見できなかった。

2. 古人骨調査結果の概要

赤崎鍾乳洞に現在残る保管された骨は、人骨が4片、動物骨が1片である。以下、人骨の所見のみを書く。人骨は、左大腿骨2片（骨体上部が1片、骨体中央から下部にかけて1片）、右大腿骨1片（骨体上部）、左脛骨1片（骨体部）である（図2）。すべての骨片に黒色物が付着している。左右の大腿骨片3片は、この黒色物によって全外表面が覆われている。左脛骨片は、後面のみに黒色物が付着している。黒色物が付着している面は、南支洞の床面上にあり、空気や流れ落ちる水滴と常時接触していたと考えられる。また、黒色物が付着していない面は、土中に埋もれていたために付着しなかった可能性が考えられる。



図2 赤崎鍾乳洞内で発見され保管されてきた人骨片4片

3. おわりに

今後、赤崎鍾乳洞で保管されてきた古人骨や動物骨について、放射性炭素年代測定を行い、所属年代を確定させたい。年代を確定させたいうえで、人骨と動物骨について、詳細な観察と計測など、人類学的精査を行っていきたい。

謝辞

調査の機会を与えていただき、多数の助言や助力を賜った赤崎鍾乳洞管理人の椋山継男氏に深甚の謝意を表します。本調査はJSPS 科研費 JP16K03172の助成により行われた。

引用文献

九州大学探検部 (1974) 奄美群島調査報告書. 1-22.

武永健一郎（1973）珊瑚礁地域の地形．武永健一郎遺稿出版委員会．1-226.

吉村和久・井倉洋二（1981）赤崎鍾乳洞．奄美諸島 沖永良部島の洞窟，日本洞窟協会編集，鹿児島県知名町・和泊町．p26.

（2018年8月2日 受理）